

令和7年度 授業改善推進プラン < 国語 >

練馬区立大泉西中学校

	課題分析	授業改善策	評価
1 年	○小学校の時国語が好きだったという生徒は、各クラス1,2名いる。 ○漢字テストや作文を苦手とする生徒が多く、国語が嫌な理由にもなっている。 ○読解力に課題がある生徒が半数以上いる。教師が質問をしても、友達の解答や教師の説明を待っている様子も窺える。 ○漢字テストは意欲をもって取り組む生徒とそうでない生徒で、二極化している。 ○初めての定期考査では、知識・技能に関する学習について努力がみられた。しかし授業の復習やワークでの学びの確認ができていない生徒も一定数いた。	○信頼関係を築き、文章を読んで考えることは楽しいと思える授業を目指す。努力していることを認め、成果が出るまで頑張る体験を応援したい。クラスに学習意欲を高め合える雰囲気をつくる。 ○読解のポイントを指導し、発問を工夫し、自分で文章を読んで答えられる生徒を増やす。理解の程度に応じた発問も準備する。 ○学習した内容を理解できるよう、ノート作り工夫できるよう指導する。 ○適宜タブレットを使用して、対話的な活動を通して、他者から学ぶ機会を設けていく。その際、自分の考えがどう変容したか自覚できるような発問をしたりするなど、授業を工夫する。 ○テスト勉強の仕方を振り返らせ、助言する。	
2 年	【知識・理解】 (ア) 漢字の書き問題を苦手とする生徒が多い。 (イ) 文法問題を苦手としている生徒が多い。 【思考・判断・表現】 授業で扱った内容でも言葉や表現を少し変えたと理解できない生徒がみられた。 【主体的に学習に取り組む態度】 暗唱課題などで多くの生徒が主体的に取り組むことができていた。一方で、タブレット上での提出課題は未提出になっている生徒が多くみられた。	【知識・技能】 (ア) 漢字 50 問テストの回数を増やし、漢字の書き取りを行う機会を増やす。 (イ) 文法を担当している講師と連携しながら、授業内で復習の機会を設ける。 【思考・判断・表現】 単元目標・本時のめあてと学習内容を結び付けることをさらに強化し、重要部分が明確になるように指導を行う。 【主体的に学習に取り組む態度】 生徒自身がテーマを決めて意欲的に取り組むことができるタブレットの課題を設定する。また、グループワークを積極的に取り入れ生徒が提出課題などでどのようなことを書けばいいかほかの生徒から学ぶ機会を設ける。	

	課題分析	授業改善策	評価
3 年	○漢字テストや作文を苦手とする生徒が多数いる。苦手意識が、国語嫌いの一因となっている。 ○漢字テストへの取組に二極化がみられる。意欲的に学習する層と、意欲が低い層との差が拡大している。 ○読解力に課題のある生徒が半数以上いる。発問に対して自力で考えず、友人の解答や教師の説明を待つ傾向がみられる。 ○知識・技能面では一定の努力が見られた。一方で、授業内容の復習やワーク等を用いた学びの定着が不十分な生徒も一定数存在する。学習習慣や学びの確認方法に課題がある。	○信頼関係を基盤に、「文章を読んで考えることは楽しい」という体験を積ませる。努力している姿を認め、成果が出るまで粘り強く取り組ませる。 ○読解のポイントを明確にし、自力で文章を読み取れるよう発問を工夫する。理解の程度に応じた段階的な質問を用意し、思考を促す。 ○学習内容の理解を深めるために、ノートづくりの方法を具体的に指導する。定期考査に向けて、テスト勉強の方法を振り返らせ、助言を行う。 ○タブレットを適宜活用し、対話的な活動を通して他者から学ぶ機会を確保する。自分の考えの変容に気付けるような発問や共有活動を工夫する。	